

令和6年度 自己評価 及び学校関係者評価書

令和7年(2025年)2月27日
札幌市立中島中学校

1. 経営方針

- 新学習指導要領に基づく授業改善の実行
- 札幌らしいCSに向けた「小中一貫教育」(校種間連携)の実行
- 多様性に応じる生徒指導・支援の実行
- ワークライフに好循環を生み出す働き方改革の実行

2. 学校経営の重点

- (1) 学ぶ力の育成～分かる・できる・楽しい授業づくりの充実～
- (2) 豊かな心の育成
- (3) 健やかな体の育成
- (4) 特別な配慮を必要とする子どもへの教育
- (5) 信頼される学校の創造
- (6) 教科等の枠組を越えた教育
- (7) 働き方への取組 ～生き生きと働く職場をめざして～

3. 自己評価の結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の 適切さ	改善策の 適切さ
学校運営	①中島中学校の生徒の実態に合わせた教育課程の在り方が検討され、生徒主体の授業づくりを行っている。	A	「課題探究的な学習」の充実を図り、主体的・対話的な学びの視点から授業づくりの改善に取り組んだ。一人一人が自信をもつことができるよう、「自分にはよいところがある」と実感できる授業づくりに取り組んだ。	A	A
	②小学校や家庭、地域、関係機関と連携した教育活動が行われている。	B	資生館小学校の先生方とともに研修を行うことができた。学びの連続性を意識した指導が伝わるようになっていく。	A	A
	③保護者や地域の人の関わりを大切に学習が実施されている。(放課後ユリイカボランティアによる学習支援、中島探究活動等)	A	さっぽろ青少年女性活動協会によるユリイカスペースを利用した学習支援やリビングカーによる食の提供、生徒会主催の地域清掃、中島探究活動における中島公園管理事務所とのつながりが定着してきた。より一層の関係強化、情報発信を心がける。	A	A
	④生徒一人一人に目を向け、それぞれにあった生徒支援の在り方を検討している。また、ボランティアや外部人材を活用した取組(放課後ユリイカスペース)や欠席生徒へのクロムブックを活用した支援が行われている。	A	多様なケースにできる限りの対応をしている。学校評価アンケートの自由記述において、評価していただいているコメントがあった。今後も継続する。	A	A
	⑤学校全体として、既成の活動を見直す努力をしている。	B	合唱発表会を実施することができた。保護者も多数来校したことから成果があったと考える。また、生徒会を中心にきまりの見直しについて着手しており、今後の変化に注目したい。	A	A
学習指導	⑥生徒が主体となった授業づくりに努めている。授業の中で、生徒が互いに尊重し合うようにしている。ICTを積極的に活用している。	A	これまでより生徒主体の学習環境づくりを進めている。更に研修し、ICTを活用するなどしてより生徒が主体となる活動を支援する。	A	A
	⑦課題探究的な学習を取り入れた授業を行っている。	B	目的を明確に示し、生徒自らが考え、自らのアイデアをもって学ぶという授業になるように研修・実践を行った。札幌市が進めているAARの視点で捉え直した授業を意識していく。	A	A
	⑧ICTを活用して情報活用能力を進化させたり、情報発信能力を育成したりしている。	A	クロムブックの使用ルールを統一して指導できるよう明確化した。活用の仕方等の指導充実を目指したスキルアップが必要である。	A	A

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒支援	⑨ 旅行的行事や学校祭活動は、豊かな感性やなかまと協力する力を育てている。	A	行事を通してより良い人間関係を構築することができるよう具体的な指導を付加し、実感できるような振り返りをする。また、実践を積極的に発信していく。	A	A
	⑩ 旅行的行事や学校祭活動、特別の教科 道徳を通して、自己を尊重し、支え合う気持ちが育てられている。	A	今後も学校行事や日常の係・当番活動を大切に、好ましい人間関係作りの支援を行う。	A	A
	⑪ 学校は、いじめに対して組織的に取り組み、「防止」、「早期発見」、「対処」に向けた努力をしている。	A	年々数値が上がっている。本校に関わるすべての人に対して、いじめは犯罪であること、人権尊重の考え方について理解を求め続ける。	A	A
	⑫ 学校は「健やかな体」育成プログラムに基づいて、放課後運動クラブや部活動等を通して生徒の体力向上に向けて努力している。	B	部活動への加入率は低い。部の数を増やしてほしいと要望が絶えないが、実現は困難である。体力向上に向けた取組についてユリイカサークルとの連携も含めて検討する。	A	C
	⑬ 健康に関する指導や感染症への対応が適切に行われている。	A	学校生活の中での一般的な感染症対策について根拠を明確にしながら指導した。日常的な取り組みについても根拠をもって指導し、その取組を積極的に発信する。	A	A
	⑭ 食指導、食についての情報発信が適切に行われている。	A	給食時に献立や由来、栄養価などを紹介している。今後も継続する。	A	A
学校運営	⑮ 学校は保護者や地域に対して学校内の情報を積極的に発信し、理解を得られるよう努めている。	A	学校ホームページにより学校内の様子を定期的に知らせることができた。また、すぐへの配信数が増え、お知らせや参加確認は保護者とダイレクトに行うことができた。	A	A
	⑯ 学校評価アンケート等を通して、よりよい学校経営がなされるよう努めている。	A	学校評価アンケートだけでなく、生徒会を中心として R S P (Re:School Project) がスタートした。意見を表明したり、議論する経験を積むことで変化や成長を実感できる取組を進めていく。	A	A
	⑰ 学校は、安心・安全な環境づくりを行っている。	A	いじめ、人権に関する指導、SNSとのかかわり、性についての指導、SST などについて、今後も継続指導する。	A	A
生徒支援	⑱ 将来を見据えた進路指導が計画的に行われ、主体的に進路選択する能力・態度が育てられている。	A	3年間を見通した進路指導を計画・実施している。今後も、受験指導にとどまらず、自分事として将来を真剣に考えられるような指導を心がけ、内容を積極的に発信していく。	A	A

4. 学校関係者評価委員による意見

⑫について、放課後の運動や文化体験活動は、本来であれば学校が主たる責任を負うものではないと考えます。部活動という枠組みにとらわれずに、社会教育や地域活動の視点から札幌市の教育全体としてビジョンを示し、学校はそれに協力するという役割分担が望ましいと考え、改善策はC評価と致しました。

総じて、先生方が生徒に対して安心安全な環境づくりを行っていることは、十二分に評価できます。一方で、サポートが必要な保護者（世帯）への支援について、ぜひ教育委員会主導でモデル事業を試行していただければと思います。